



2022年2月10日

各位

会社名 株式会社歯愛メディカル
(コード番号 3540、東証JASDAQ)
代表者名 代表取締役社長 清水 清人
問合せ先 取締役経営管理部長 三好 誠治
TEL 076-278-8802
URL <https://ci-medical.co.jp/>

個別決算における前事業年度の実績値との差異に関するお知らせ

当社は、個別業績予想を開示しておりませんが、個別決算における当事業年度の実績値が、前事業年度の実績値から一定以上変動しましたので、お知らせいたします。

1. 個別決算における前事業年度の実績値と当事業年度の実績値との差異

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益(円)
前事業年度実績(A) (2020年12月期)	36,349	4,356	4,449	2,714	271.48
当事業年度実績(B) (2021年12月期)	40,050	4,208	4,595	2,926	292.67
増減額(B-A)	3,701	△147	145	211	—
増減率(%)	10.2	△3.4	3.3	7.8	—

2. 差異が生じた理由

当社におきましては、第1四半期会計期間は、前連結会計年度に引き続き厚生労働省による「新型コロナウイルス感染拡大防止等の支援事業(2020年4月1日から2021年3月31日までの感染予防対策費用が対象)」について、当社の主要なお取引先である歯科医院が対象となっていたことが、業績に寄与しております。

第2四半期会計期間以降は、当社の主力顧客である歯科医院様を中心に、更には福祉・介護施設様及び病院・一般診療所様等の前連結会計年度に感染対策商品をご購入いただき新規口座を開設されたお客様に対して、セールス企画を積極的に実施したことにより引き続きご注文を頂けたこと等が売上増加に寄与しております。その一方で、当社ロジスティクスセンターの出荷能力が不足をきたし外部倉庫の手配等も順調に進まず、出荷作業並びに配送の遅延が生じました。そうした中、当第3四半期会計期間におきまして、ロジスティクスセンターの人員強化及びシステム・マテハンの一部改修を実施する等、今後に向けての売上拡大策を図っております。また、中長期的には現在進行中の新物流センターの建設により、更なる出荷能力の増強を進めてまいります。なお、調剤薬局向け通信販売事業につきましては、ジェネリック医薬品メーカーにおける相次ぐ自主回収の発生の影響により、商品の欠品が相次ぎ低調に推移いたしました。

当事業年度を通じて、コロナ禍でのWEBセミナー効果及び対面営業活動の相乗効果により大型医療機器（デジタルレントゲン医療機器等）の売上が伸長しております。また、当社商品ラインナップに歯科用ユニットが加わったこと及び新型コロナウイルス新規感染者数の落ち着きにより、今まで慎重だった新規開業への意欲が強まりつつあること等から大型医療機器を含む開業セットの販売が拡大しております。後述するその他事業のCAD/CAM 歯科技工関連機器・システム販売と併せまして、これら大型医療機器等の当連結会計年度の売上高は31億61百万円にまで拡大しております。

その他の事業については、CAD/CAM 歯科技工関連機器・システム販売事業においては、歯科医院におけるCAD/CAM 冠やジルコニアクラウンの需要の高まりによりCAD/CAM 加工機及び口腔内スキャナ販売が堅調に推移し、CAD/CAM 歯科技工物製作事業においては、昨年は新型コロナウイルス感染拡大の影響より低迷した高齢者向け義歯需要が回復したことや透明マウスピース型矯正「シースルーアライナー」の受注が伸びており順調に推移いたしました。また、歯科医院等の医療機関取引先向け電力小売取次事業「Ci電たる」においても経営成績は順調に推移しております。

以上の理由より、売上高につきましては前事業年度に比べて増収となりましたが、営業利益につきましてはセール企画の実施に伴う広告宣伝費、ロジスティクスセンターの人員強化に伴う人件費及びシステム・マテハンの一部改修に伴う減価償却費の増加等の影響により微減となりました。

経常利益並びに当期純利益につきましては、前事業年度において新型コロナウイルス感染症の拡大により売上・利益共に大幅に伸長した当社連結子会社から、前事業年度を基準日とする剰余金の配当を当事業年度に受領したこと等により増益となりました。

以 上